

# 「第28回岡本太郎現代芸術賞(TARO 賞)」展

The 28th Exhibition of the Taro Okamoto Award for Contemporary Art

## 第 28 回岡本太郎現代芸術賞 (TARO 賞) 受賞者が決定しました。

今回の授賞式では岡本太郎賞(1 点)、岡本敏子賞(1 点)、特別賞(1 点)が選ばれました。

### 岡本太郎賞 (賞金 200 万円)

なかむらひろかず ぼうそうはんとうしょうけいきらん ちば かいがんせんすなりよこう  
仲村浩一 《房総半島勝景奇覧/千葉海岸線砂旅行》



作品サイズ:230 × 486 × 3cm

素材:《房総半島勝景奇覧》キャンバスにアクリル絵の具、砂《千葉海岸線砂旅行》スケッチブックにセロテープ、砂

#### ○作家の言葉

10 歩間隔で足元の砂を採取しながら千葉県の海岸線を一周した《千葉海岸線砂旅行》と、その旅の過程で見た景色やお土産、文化、印象に残ったものを描いた絵画作品である《房総半島勝景奇覧》がセットで作品になっています。砂浜によって砂の色が違うことに興味を持ち、大学 4 年間をかけて千葉県の砂浜を一周しました。その活動が絵画制作の動機となり、生まれてから暮らしている「千葉県」を砂と絵画作品の 2 側面から表現しようというのがテーマになっています。

#### ○略歴

1999 年 千葉県生まれ  
2024 年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻 卒業  
2024 年 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻 在籍

#### [受賞歴]

2022 年 第 96 回国展 奨励賞  
2023 年 第 97 回国展 奨励賞  
2024 年 武蔵野美術大学卒業制作展 優秀賞

#### [主な展覧会]

2022 年 三人展「エモダサチーブ」(NAZUKARI WAREHOUSE/千葉)  
個展「渋ポップ」(アドバルーン商会/東京)  
2023 年 個展「渋ポップ～たびだち～」(アドバルーン商会/東京)  
2024 年 個展「渋ポップ～petit～」(アドバルーン商会/東京)  
2024 年 グループ展「Short Short」(東京藝術大学)

## ○審査評

本作の勝因は、「千葉県」という「月並」と言えばあまりに月並な主題を、作者が生まれ育った故郷であったということだけに発し、4 年を費やして同県の海岸線をぐるりと10歩ごとに分けて足元の砂を採取して踏破し、それをもとに「尋常でない」一大パノラマに仕立ててみせたことにある。このことを通じて「千葉県」は、砂による抽象と具象に分岐し、なおかつ同一のものであるという奇妙な二重性を獲得している。「千葉県」が他に類を見ないやり方で芸術へと昇華されたのだ。(榎木野衣)

## 岡本敏子賞 (賞金 100 万円)

さいとう げんすけ  
齋藤 玄輔 《語り合う相手としての自然》



作品サイズ:355.5×387×387cm / 素材:カーボン紙、LED ライト

## ○作家の言葉

東日本大震災から約 10 年となる 2020 年、帰還困難区域の避難指示が解除されたばかりの福島県、双葉町を訪れました。10 年間そのまま放置された町。まるで自然に戻そうとするように伸びる植物たち。被曝したであろう、その植物たちを採取し押し花にしたものを版として福島第一原子力発電所の建屋に描かれていた、波のような模様をした植物による建屋をつくります。内部から LED ライトで照らされた双葉町の植物たちは、文明の象徴ともいえる電力のチカラによって浮かび上がります。

## ○略歴

1975 年 北海道旭川市生まれ

2004 年 東北芸術工科大学大学院 芸術工学研究科修了

## [受賞・展示]

2003 年 「Library Project」で東北芸術工科大学学長奨励賞受賞

2012 年 個展(テンポラリースペース/札幌市)

2013 年 「サークルオブアート」(北海道立近代美術館/札幌市)

2018 年 「JR Tower Art Planets Grand prix Exhibition 2018」グランプリ受賞(プラニスホール/札幌市)

2020 年 個展「THIS PLACE THIS TIME 2020 SAPPORO」(札幌文化芸術交流センターSCARTS/札幌市)

2023 年 個展「冬の華」(旧白銀荘/上富良野町)

2024 年 「語り合う相手としての自然-Conversing with Nature」(せんとぴゅあ 1/東川町)

## ○審査評

まず、カーボン紙のブルーの色に目を奪われる。一見遠くから見るとデザイン的なイメージかと思い、近づいてみるとその儚さと繊細さに衝撃を受ける。裏からの強い LED ライトもカタチを崩した植物のラインを強調している。ベースフォームを福島第一原子力発電所建屋から成っている点、収集された植物が帰宅困難地域で被爆したであろう植物という点に心を打たれた。(和多利浩一)

**特別賞（賞金 50 万円）**

井下 紗希《森を歩くこと。》



作品サイズ:500×500×500cm / 素材:油彩、キャンバス、パネル、木材、釘、接着剤、ヒートン、紐

## ○作家の言葉

森は人の内面を映し出す。私にとって、森の中を歩くことは自分自身と向き合うことに他ならない。

森を歩くと、感覚は研ぎ澄まされる。そこに息づくもの(物神)の中に見えるものは、自身の絶望、葛藤、もがき、焦燥、畏怖、そして圧倒的な生命力。感情のゆらぎを絵の中に投影しながら、内面的な絵画空間をつくり出していく。その集大成を「絵画の森」として体現した。

## ○略歴

1997年 神奈川県生まれ。大学在学中に油絵に出会い、2019年から植物に自身の内面を投影した絵を描く。2021年 屋久島への旅をきっかけに、植物だけでなく、それらを取り巻く環境にも視野が広がり、旅や登山を通してモチーフを探すことを始める。2023年 大学院修了後、国内外の複数の展示に出品、絵を描き続ける。

## [受賞・展示]

2021年 武蔵野美術大学卒業制作 優秀賞・三雲祥之助賞  
2021年 「世界絵画大賞展」「神奈川県美術展」  
2021年 第57回 日動画廊 昭和会展 入選  
2021年 第25回 岡本太郎現代芸術賞 入選  
2023年 武蔵野美術大学修了制作 油絵学科研究室賞  
2023年 第4回 始弘賞  
2023年 「井下紗希 個展 -荊のなかで身を焦がした-」(始弘画廊)  
2024年 IAG Award 入選

## ○審査評

ユリ、ヒマワリ、アロエなどなど、巨大化した植物が画面を埋め尽くす。作者は、「森を歩くと、感覚は研ぎ澄まされる。そこに息づくものの中に見えるものは、自身の絶望、葛藤、もがき、焦燥、畏怖、そして圧倒的な生命力。」だと言う。暗褐色の画面は、たしかに絶望や葛藤を暗示する。だが、パワフルな花々からは「圧倒的な生命力」を感じさせる。屋久島への旅をきっかけに日本各地を訪ね歩いた作者は、集大成として「絵画の森」をつくりあげたのである。

(山下裕二)

## お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：加藤、片岡、鈴木、細川 広報担当：山内 ([pr@taromuseum.jp](mailto:pr@taromuseum.jp))

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形 7-1-5 生田緑地内

TEL : 044-900-9898 / FAX : 044-900-9966 <https://www.taromuseum.jp>



### 展覧会プレスリリース

# 「第28回岡本太郎現代芸術賞(TARO 賞)」展

The 28th Exhibition of the Taro Okamoto Award for Contemporary Art



第28回岡本太郎現代芸術賞展ポスタービジュアル

## 時代を創造する者は誰か！

時代に先駆けて、たえず新たな挑戦を続けてきた岡本太郎。岡本太郎現代芸術賞は、岡本の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するべく設立されました。今年で28回目を迎える本賞では、579点の応募があり、創造性あふれる24名の作家が入選をはたしました。21世紀における芸術の新しい可能性を探る、意欲的な作品をご覧ください。

## 開催概要

会期	2024年2月23日(日・祝)～4月13日(日)
会場	川崎市岡本太郎美術館 企画展示室
主催	川崎市岡本太郎美術館、公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団
開館時間	9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日(2月24日、3月24日、3月31日、4月7日を除く)、2月25日(火)、3月11日(火)、3月12日(水)、3月21日(金)
観覧料	一般700(560)円、高・大学生、65歳以上500(400)円 中学生以下は無料 ※ ( ) 内は20名以上の団体料金

同時開催：常設展「私の現代芸術—コンペイ党宣言」 会期：1月18日(木)～4月13日(日)

### ●写真撮影・SNS等への画像掲載について

本展覧会は、会場内をご自由に撮影することができます。SNS等への発信も可能です。

(※動画撮影、フラッシュ撮影、三脚・自撮り棒・ジンバル等の器材の使用は不可)

# PRESS RELEASE



川崎市岡本太郎美術館  
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

会場や作品の様子が SNS 等を通じてシェアされ、来館者と作家とのコミュニケーションのきっかけになればと考えています。

## 入選者(50音順)

井下 紗希 ISHITA Saki

IWACO

大岩 美葉 OHIWA Miyou

神村 あづさ KAMIMURA Azusa

木原 健志郎 KIHARA Kenshiro

黒田 恵枝 KURODA Yoshie

齋藤 玄輔 SAITO Gensuke

齋藤 翼 SAITO Tsubasa

陳 昱如 CHEN Yuru

土田 祐加 DOTA Yuka

どばしほのか DOBASHI Honoka

仲村 浩一 NAKAMURA Hirokazu

西野 萌黄 NISHINO Moegi

英 ゆう HANABUSA Yu

濱本 菜花 HAMAMOTO Nanaka

前田 明日美 MAEDA Asumi

増田 充高 MASUDA Michitaka

丸山 千香子 MARUYAMA Chikako

武藤 攝 MUTO Osamu

毛利 華子 MOHRI Hanako

望月 章司 MOCHIZUKI Shoji

矢成 光生 YANARI Mitsuo

山下 茜里 YAMASHITA Akari

山田 歩 YAMADA Ayumu

(24名)

## 出品作品

入選者による 平面、立体、映像、インスタレーション作品、他 24点

## 審査員(50音順)

榎木 野衣：美術批評家／多摩美術大学教授

土方 明司：川崎市岡本太郎美術館館長

平野 暁臣：空間メディアプロデューサー／岡本太郎記念館館長

山下 裕二：美術史家／明治学院大学教授

和多利浩一：ワタリウム美術館キュレーター

## 関連イベント

### 1) お気に入りを選ぼう！

第28回 TARO 賞入選作品の中から、ご来館の皆さまにお気に入り作品を投票していただきます。投票結果は、HP等で発表するとともに、上位の作家には記念品を進呈します。

日時：2025年2月23日（日・祝）～3月23日（日）

場所：ギャラリースペース ※作品鑑賞は要観覧料

結果発表：2025年3月29日（土）（予定）



### 2) お手紙プロジェクト

作品の感想などを共有する「お手紙プロジェクト」。ご来館の皆さまに、入選作家や作品へのメッセージを書いていただく企画です。

日時：2025年2月23日（日・祝）～4月13日（日）

場所：ギャラリースペース



### 3) 出品作家によるリレートーク

出品作家によるリレートークを行います。

日時：未定（会期中、4回程度実施予定）

場所：企画展示室 ※要観覧料

その他、関連イベントの詳細につきましては、当館ホームページでお知らせいたします。

川崎市岡本太郎美術館ホームページ <https://www.taromuseum.jp>